

# NISA 概要レポート 2025 年第 3 四半期

## つみたて投資に変調の兆し？

### モーニングスター

2025 年 10 月

### 目次

- 2 NISA 買付動向
- 3 投信販売における NISA シェア
- 5 資金フロー動向
- 11 まとめ

元利 大輔

モーニングスター・ジャパン

マネジャー・リサーチ部長

+81 3 4510-5492

[daisuke.motori@morningstar.com](mailto:daisuke.motori@morningstar.com)

### 重要事項

Morningstar のアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。

[global.morningstar.com/equitydisclosures](https://global.morningstar.com/equitydisclosures)

### 概要

本レポートは、2025 年上半期の NISA 買付動向と第 3 四半期の投資信託資金動向を分析したものである。NISA 口座での買付総額は市場変動下でも前年同期比 4%増と堅調だったが、つみたて投資枠が第 2 四半期に新 NISA 開始以降初めて前四半期を下回り、一部投資家がつみたて投資を停止した可能性が示唆される。投信販売全体における NISA 経由のシェアは約 4 割に達したが、これは主に NISA 口座外での販売鈍化が影響している。第 3 四半期の純資金流入は前年同期から大幅に減少したものの、9 月には持ち直しが見られ、資金流入上位ファンドは従来のインデックス中心から分配金重視型、テーマ型、バリュー株戦略などへと多様化が進んでいる。

### 主なポイント

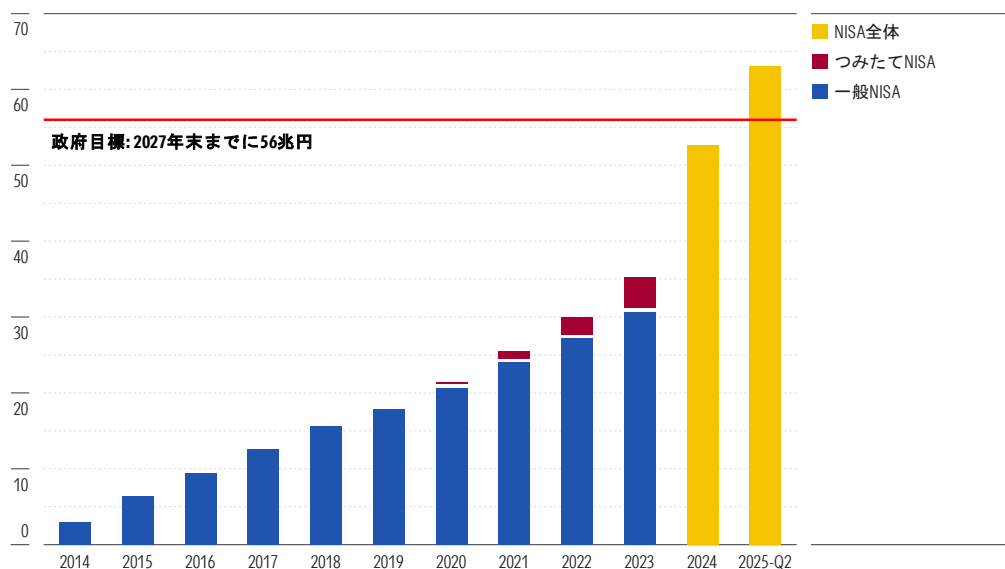
- ▶ NISA 総買付額は堅調だが、つみたて投資枠の利用状況には若干の懸念材料が見られる。2025 年上半期の NISA 買付総額は前年同期比で 4%増加したが、つみたて投資枠の買付額が第 2 四半期に新 NISA 開始以降初めて前四半期比で減少し、一部投資家が市場変動によりつみたて投資を停止したことが示唆される。
- ▶ 成長投資枠の買付額は減少傾向が拡大した。成長投資枠の買付額は 2025 年上半期に前年同期から約 4,900 億円減少し、特に第 2 四半期は減少幅が拡大しており、市場の変動が新規投資に影響を与えた可能性がある。
- ▶ 投信販売における NISA 経由のシェアは約 4 割に達している。一般向け投資信託販売全体のうち、NISA 口座経由の買付額は約 4 割を占めている。NISA 経由のシェア上昇は主に NISA 口座以外での投信販売の鈍化による影響が大きい。
- ▶ 投信への純資金流入は減速したが、回復の兆しが見える。2025 年第 3 四半期の公募株式追加型投信への純資金流入額は前年同期から大幅に減少したが、8 月以降に持ち直しの傾向が見られ、9 月には 5 カ月ぶりに 1 兆円台を回復した。
- ▶ 資金流入上位ファンドの多様化が進んでいる。上位には低コストのインデックスファンドが引き続きランクインしているものの、分配金重視のファンドや、安全資産志向の高まりを示す金関連ファンド、AI 活用型のアロケーションファンドなど、投資家のニーズが多方面に広がっている。
- ▶ アロケーション型ファンドへの安定的な資金流入が続いている。資産クラス別では株式型への資金流入が圧倒的であるが、アロケーション型ファンドは純資金流入が安定しており、市場変動期における自動リバランス機能へのニーズが高まっていることがうかがえる。

## NISA 買付動向

市場の変動性が高まる中でも、NISA 口座での買付は着実に増加している。金融庁が 2025 年 9 月に公表した統計によると、2025 年上半期の累計買付額は 10 兆 5,008 億円となり、前年同期の 10 兆 1,341 億円を約 4%上回った。

一方、2025 年第 2 四半期の買付額は 3 兆 8,972 億円と、前年同期の 3 兆 9,565 億円から約 1%減少した。2025 年 4 月の関税ショックなどにより市場の変動性が高まる中でも、NISA 口座での買付額に大幅な落ち込みは見られない。これは、個人投資家の NISA を通じた資産形成意欲が依然として堅調であることを示している。

図表 1 NISA 累積買付額の推移（兆円）



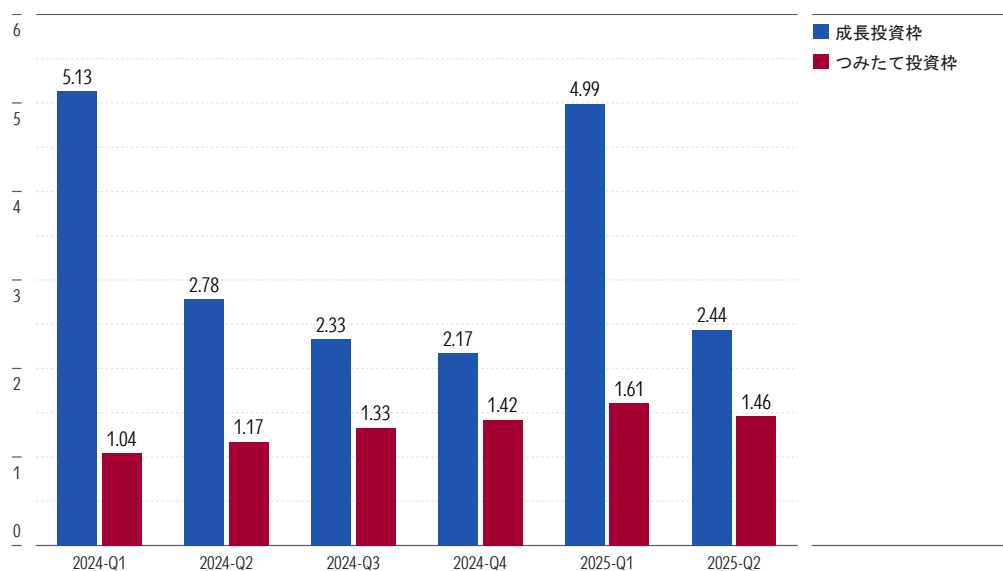
出所: 金融庁統計資料より Morningstar Research が作成。

成長投資枠とつみたて投資枠別に見ると、2025 年上半期の成長投資枠の買付額は前年同期から約 4,900 億円減少し、7 兆 4,292 億円となった。第 1 四半期の 1,400 億円減少に対し、第 2 四半期は 3,500 億円減と減少幅が拡大した。一方、つみたて投資枠は上半期累計で 3 兆 716 億円となり、前年同期から 8,500 億円以上の大幅増加を記録した。第 1 四半期、第 2 四半期ともに買付額は増加しており、市場の変動性の高まりの影響を受けていないように見える。

しかし、四半期ごとの推移を詳細に分析すると、つみたて投資枠に変調の兆しが見える。新 NISA 開始以降、つみたて投資枠での買付額は四半期ごとに増加していたが、2025 年第 2 四半期の買付額は第 1 四半期を下回った。投資を継続していれば、つみたて投資の買付額は減少することはないため、この減少は 2025 年第 2 四半期につみたて投資枠での投資を停止した投資家が一定程度存在することを示唆している。前回のレポートでは、つみたて投資枠における買付額が四半期ベースで着実に増加していたことから、長期的な資産形成を目指す個人投資家の裾野拡大を指摘し

たが、2025 年第 2 四半期の結果は、この基調に変化が生じつつあることを示している。今後の動向を注視したい。

図表 2 NISA 四半期買付額の推移（兆円）



出所: 金融庁統計資料より Morningstar Research が作成。

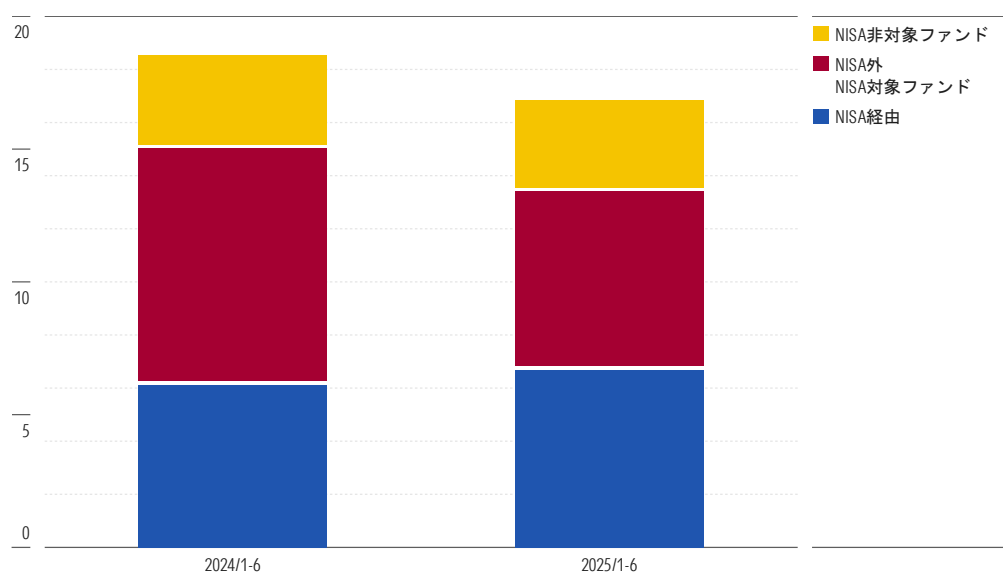
## 投信販売における NISA シェア

ここでは、一般向けの投資信託（確定拠出年金専用または SMA/ファンドラップ専用ファンドを除く）の設定額（販売額）と NISA 口座経由の投資信託の買付額を比較し、投信販売における NISA のシェアを分析する。

2025 年上半期における NISA 口座での投資信託買付額は 6 兆 6,788 億円であった。一方、一般向け投資信託の設定額は全体で 16 兆 8,191 億円となる。従って、投資信託販売のうち約 4 割が NISA 経由となっている。NISA 外での投資信託設定額は 10 兆 1,403 億円であるが、このうち 3 兆 4,225 億円が毎月分配型などの NISA 非対象ファンドであり、全体の約 2 割を占める。残りの 6 兆 7,178 億円が NISA 対象ファンドを NISA 口座外で購入したものであり、全体の約 4 割に相当する。

前年同期と比較すると、NISA 非対象ファンドのシェアは大きな変化を見せていない一方、NISA 口座経由での投信買付額のシェアが上昇した。これは NISA 経由での買付が大幅に増加したというよりも、NISA 口座以外での投資信託販売が前年に比べて鈍化したことの影響によるものである。

図表 3 一般向け投資信託販売における NISA シェア（兆円）



出所: 金融庁統計資料、Morningstar Direct より Morningstar Research が作成。

## 資金フロー動向

### 全体

2025 年第 3 四半期（7-9 月）の日本籍公募株式追加型投資信託への純資金流入額（設定額から解約・償還額を差し引いた金額）は 2 兆 2,130 億円となり、前年同期の 4 兆 3,112 億円から大幅に減少した。2025 年第 2 四半期（4-6 月）の純資金流入額 2 兆 5,285 億円と比べても資金流入ペースは鈍化した。ただし、8 月以降は純資金流入額に持ち直しの兆しが見え、9 月には 1 兆 2,623 億円と 5 カ月ぶりに 1 兆円台の水準を回復した。

分析対象のユニバースを一般公販ファンド（約 4,300 本）に限定した場合<sup>1</sup>、第 3 四半期の純資金流入額は 1 兆 8,431 億円となった。そのうち NISA 対象ファンドへの純資金流入額は 1 兆 5,111 億円を占めた。NISA 対象ファンドは引き続き純資金流入の大部分を占めているものの、一般公販ファンドにおけるその金額は、2025 年 7 月には 1,688 億円と 2024 年 1 月の新 NISA 開始来最低の水準を記録した。

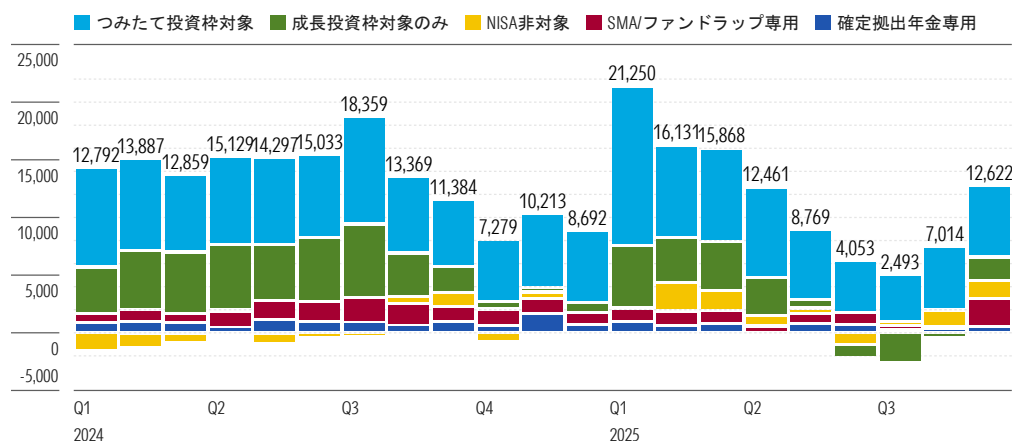
図表 4 2025 年第 3 四半期の純資金流入額（億円）

ユニバース	第 3 四半期累計	前年同期	2025 年 7 月	2025 年 8 月	2025 年 9 月
全ファンド	22,130	43,112	2,493	7,014	12,623
うち NISA 対象	15,785	34,647	1,407	5,329	9,049
分析対象ファンド	18,431	35,644	2,014	6,653	9,764
うち NISA 対象	15,111	34,015	1,688	5,203	8,220
うち NISA 非対象	3,320	1,629	326	1,450	1,544

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

2025 年 8 月までの純資金流入額は実績値、2025 年 9 月の純資金流入額は推計値。（以降も同じ）

図表 5 純資金流入額推移（億円）

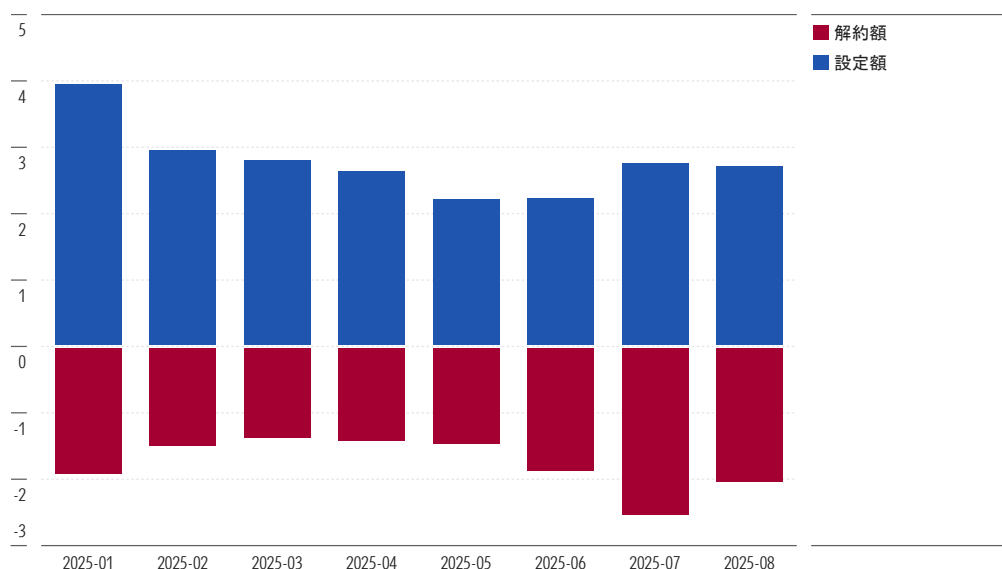


出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

1 個人投資家の意思決定に関する資金フローのトレンドを分析するため、確定拠出年金専用ファンドおよび SMA/ファンドラップ専用ファンドを除外している。

2025 年 1 月から 8 月<sup>2</sup>までの設定額と解約額の推移を見ると、設定額は 2 月から減少傾向を示し、5 月および 6 月は約 2.2 兆円まで低下した。その後、7 月および 8 月は約 2.7 兆円まで回復した。一方、解約額は 2 月から 5 月にかけては 1.4 兆円前後で推移した後に増加に転じ、7 月には 2.5 兆円に達した。この動向は、投資家心理の変化を反映している。2025 年前半は市場の変動性の高まりから新規の投資意欲が減少したものの、拙速な売却は回避する動きが見られていた。しかし、世界的に株価が上昇する中で、新規投資が回復する一方、利益を確定する売却行動が 7 月に高まったことを示している。

図表 6 2025 年 1-8 月の設定・解約額推移（兆円）



出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。一般公販ファンドを対象、解約額をマイナスで表示。

### 純資金流入上位ファンド

2025 年第 3 四半期は、引き続き「eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）」や「eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）」の低コストのインデックス・ファンドが上位に位置したものの、従来のような圧倒的な資金流入は見られなくなってきている。「インベスコ 世界厳選株式オープン＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）」が第 2 位に浮上しており、毎月分配型ファンドにおいて同ファンドと人気を二分していた「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 D コース」が前半に分配金の支払いを一時見合わせたことから、分配金重視の投資家が流出し、同ファンドに資金が集中した形となった。同様に、「フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D コース」も分配金ニーズを背景に資金を集めている。

2 本レポート執筆時点では実績ベースの設定額が公表されていないため 8 月までの集計値を用いている。

上位 30 ファンドには金（ゴールド）関連ファンドが 4 本ランクインしており、市場の変動性の高まりを受けて安全資産への関心が高まっていることがうかがえる。テーマ型ファンドやアロケーション型ファンドも存在感を増しており、特に「ROBOPRO ファンド」は AI による機動的な資産配分を特徴とし、600 億円近い資金を集めて 11 位にランクインした。運用コストは 1.5%以上と高めであるが、「お任せ運用」へのニーズが一定程度存在することを示している。全体として、資金流入上位ファンドの構成は以前よりも多様化しており、投資家のニーズが分配金、テーマ性、運用スタイルなど多方面に広がっている様子が見て取れる。

新規設定ファンドへの資金流入も活発になりつつある。2025 年第 3 四半期に新規設定されたファンドは 68 本で前四半期の 55 本からやや増加した。一方、同四半期の新規設定ファンドへの純資金流入額は 3,052 億円と前四半期の 1,127 億円から大幅に増加した。同四半期中には、メガバンク系の運用会社 3 社がそれぞれ海外の運用会社へ運用委託を行うファンド新規設定したことが目立った。三井住友 DS の「ドナルド・スミス グローバル・ディープバリュー戦略株式ファンド」が 366 億円、三菱 UFJ アセットの「モルガン・スタンレー 米国株式インサイト戦略ファンド(為替ヘッジなし)」が 344 億円、AM One の「One/ウエリントン・コントラリアン・バリュー・ファンド」が 225 億円の純資金流入額を記録した。ドナルド・スミスやウエリントンの運用戦略は、割安株に着目したものであり、マグニフィセント・セブンに代表されるような成長株やテクノロジー株とは異なるタイプとなり、販売会社においてプロダクト・ラインナップの不足部分を補完する狙いがあると見られる。

図表 7 純資金流入額上位 30 ファンド (2025 年第 3 半期)

ファンド名	モーニングスター・カテゴリ	運用会社	インデックス・ファンド	NISA対象	純資金流入額 (億円)
1 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	外国株式・世界型	三菱UAM	Yes	Yes	5,252
2 インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	外国株式・世界型	インベスコ	No	No	4,745
3 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	外国株式・米国型	三菱UAM	Yes	Yes	3,194
4 フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド Dコース (毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)	外国株式・世界型 (除く日本)	フィデリティ投信	No	No	1,784
5 ピクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	コモディティ	ピクテ	Yes	Yes	1,222
6 iFreeNEXT FANG+インデックス	外国株式・特定テーマ/セクター型	大和AM	Yes	Yes	928
7 インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(年1回決算型)	外国株式・世界型	インベスコ	No	Yes	869
8 三菱UFJ 純金ファンド	コモディティ	三菱UAM	Yes	Yes	721
9 WCM 世界成長株厳選ファンド(予想分配金提示型)	外国株式・世界型	朝日ライフAM	No	No	685
10 フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	外国株式・世界型 (除く日本)	フィデリティ投信	No	Yes	678
11 ニュートン・パワー・イノベーション・ファンド(為替ヘッジなし)	外国株式・特定テーマ/セクター型	三井住友DS	No	Yes	646
12 ROBOPRO ファンド	アロケーション・積極型	SBI岡三	No	Yes	625
13 東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	外国株式・特定テーマ/セクター型	東京海上AM	No	Yes	590
14 あおぞら・新グローバル分散ファンド(限定追加型)2025-07	アロケーション・安定型	あおぞら投信	No	No	524
15 楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド	外国株式・米国型	楽天投信	Yes	Yes	517
16 楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド	外国株式・世界型	楽天投信	Yes	Yes	496
17 SBI・iシェアーズ・ゴールドファンド(為替ヘッジなし)	コモディティ	SBI AM	Yes	Yes	424
18 ドナルド・スミス グローバル・ディープバリュー戦略株式ファンド	外国株式・世界型	三井住友DS	No	Yes	366
19 モルガン・スタンレー 米国株式インサイト戦略ファンド(為替ヘッジなし)	外国株式・世界型	三菱UAM	No	Yes	344
20 たわらノーロード 先進国株式	外国株式・世界型 (除く日本)	AM-One	Yes	Yes	343
21 eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)	外国株式・世界型 (除く日本)	三菱UAM	Yes	Yes	337
22 iFree S&P500インデックス	外国株式・米国型	大和AM	Yes	Yes	315
23 フィデリティ・欧州割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	外国株式・欧州型	フィデリティ投信	No	Yes	303
24 ニッセイシュロダー好利回りCBファンド2025-09(為替ヘッジなし・限定追加型)	外国債券・転換社債型	ニッセイAM	No	No	298
25 次世代AI株式戦略ファンド	外国株式・特定テーマ/セクター型	SBI岡三	No	Yes	282
26 Tracers NASDAQ100 ゴールドプラス	アロケーション・その他	アモーヴァ	No	No	274
27 ゴールド・ファンド(為替ヘッジなし)	コモディティ	アモーヴァ	Yes	Yes	261
28 のむらップ・ファンド(普通型)	アロケーション・標準型	野村AM	No	Yes	259
29 SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	外国株式・米国型	SBI AM	Yes	Yes	250
30 キャピタル世界株式ファンド年2回決算(分配重視)	外国株式・世界型	キャピタル	No	Yes	227

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。色掛けは第 3 四半期中の新設ファンドを示す。



### 資産クラス、カテゴリ別の資金フロー

資産クラス別に見ると、引き続き株式への純資金流入が相対的に圧倒的に多い傾向に変化は見られなかった。株式型ファンドへの純資金流入額は、2025 年第 3 四半期には分析対象ファンド全体で 1 兆 5,307 億円、NISA 対象ファンドでは 9,051 億円を記録した。一方、債券型および REIT 型は分析対象ファンド全体で資金流出が継続している。アロケーション型への純資金流入額は 2,483 億円であった。株式型に比べると金額は大幅に少ないものの、純資金流入額は安定している。株式型が第 2 四半期から 5,000 億円近く純資金流入額が減少したのに対し、アロケーション型は約 300 億円増加した。

長期投資では、複利効果や成長の恩恵を享受できるため、株式などのリスク性資産を相対的に多く保有することは合理的である。しかし、以前から指摘しているように、投資家のリスク許容度に応じて、アロケーション型や債券型など、より分散された投資戦略を検討することが重要である。また、足元の市場変動性の高まりから、個人で資産分散ポートフォリオを構築している投資家の中には、リバランスの必要性やその難しさを実感している者もいると考えられる。アロケーション型ファンドは、リバランスをファンド内で自動的に行うため、この点において利便性が高く、選択肢の一つとして検討してみてもはどうだろうか。

図表 8 2025 年第 3 四半期資産クラス別純資金流入（億円）

資産クラス	分析対象全体		NISA 対象	
	2025 年第 3 四半期	前年同期	2025 年第 3 四半期	前年同期
株式	15,307	34,190	9,051	29,188
債券	-1,236	-1,270	9	705
REIT	-300	-910	124	181
アロケーション	2,483	2,982	2,958	3,315
その他	2,177	653	2,969	627

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

カテゴリ別では、純資金流入額の 1 位と 2 位のファンドを含む外国株式・世界型が他を大きく引き離して首位となった。国内株式・大型成長型は 2,444 億円の純資金流出となり流出額トップのカテゴリとなった。日本株式ファンドでは個人投資家の逆張り投資の傾向が見られるが、第 3 四半期では「日経 225 ノーロードオープン」をはじめとする日経平均連動型のインデックスを含む大型成長型でこの傾向が顕著であった。しかしながら、相場を見極めた売買タイミングは偶然に左右される部分が大きく、短期的な売買の繰り返しが常に良い結果をもたらすとは限らないため、投資家は留意すべきである。

また、テーマ型・セクター型ファンドからの資金流出傾向も引き続き見られた。外国株式・特定テーマ/セクター型は 2,419 億円の純資金流出となった。このカテゴリに含まれる米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）から助言を受けてアモーヴァ（旧日興アセット）が運用する 3 ファンドが、合計 1,500 億円以上の純資金流出を記録した。また、昨年前半に資金を集めた半導体関連株式ファンドも資金流出となった。テーマ性やストーリー性を持ったファンド

は、パフォーマンスを後追いしやすくなり、いわゆる「高値掴み」をする可能性が高くなる。テーマ型ファンドに投資をする際にはこのような点を理解しつつ、長期投資を心がけることが望ましい。

図表 9 2025 年第 3 四半期純資金流入出額上位 10 カテゴリ（億円）

カテゴリ		純資金流出額上位10カテゴリ	
カテゴリ	純流入額	カテゴリ	純流出額
外国株式・世界型	13,217	国内株式・大型成長型	-2,444
外国株式・米国型	5,169	外国株式・特定テーマ/セクター型	-2,419
外国株式・世界型（除く日本）	3,965	トレーディング・ブルベア型	-1,046
コモディティ	3,039	国内株式・中小型成長型	-563
アロケーション・やや積極型	1,179	株式・その他	-437
アロケーション・積極型	862	国内株式・特定地域/セクター型	-416
外国株式・欧州型	400	外国株式・インド型	-347
アロケーション・やや安定型	238	外国債券・世界型（円ヘッジ）	-276
外国債券・転換社債型	223	債券・その他	-261
アロケーション・標準型	160	外国株式・米国型（円ヘッジ）	-249

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

### レーティング別の資金フロー

過去のカテゴリ内のリスク調整後リターンの相対比較により算出されるモーニングスター・レーティング別では、5 つ星、4 つ星のファンドへの純資金流入が引き続き見られた。アクティブ・ファンドに関しては 2 つ星、1 つ星からは純資金流出が見られており、これは投資家がファンドを選定する際に過去のパフォーマンスを参考にしていることの一環である。

なお、過去にパフォーマンスが良かったファンドが、将来も良好なパフォーマンスを維持するとは限らない。この点を補完するのが、アナリストによる定性評価とその評価を模倣する定量モデルから成るモーニングスター・メダリスト・レーティングである。モーニングスター・メダリスト・レーティング別の資金フローを見ると、インデックス・ファンドについては金・銀・銅のメダリスト・ファンドに資金が大きく流入しているが、アクティブ・ファンドには同様の傾向は見られない。

図表 10 レーティング別純資金流出入額（億円）<sup>3</sup>

## モーニングスター・レーティング別

レーティング	2025 年 1-9 月		第 3 四半期	
	アクティブ	インデックス	アクティブ	インデックス
★★★★★	2,246	33,859	1,734	7,907
★★★★	15,496	13,379	4,260	3,752
★★★	2,950	1,723	-649	-1,220
★★	-4,046	-209	-1,818	-191
★	-2,149	1	-923	0
対象外	5,798	19,018	-557	6,123

## モーニングスター・メダリスト・レーティング別

レーティング	2025 年 1-9 月		第 3 四半期	
	アクティブ	インデックス	アクティブ	インデックス
Gold	271	22,498	106	4,959
Silver	846	23,634	43	8,183
Bronze	1,516	2,478	242	117
Neutral	7,499	1,904	-1,308	-1,210
Negative	10,099	-844	4,952	-491
対象外	63	18,100	-1,989	4,813

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

## まとめ

NISA 口座での買付は 2025 年上半期累計では前年比 4%増と堅調を維持したものの、つみたて投資枠では第 2 四半期に初めて前四半期比で減少が見られた。これは市場変動期に一部の投資家がつみたて投資を停止したことを示唆しており、長期投資の継続という観点から懸念材料である。一方、資金流入上位ファンドの多様化や、バリュー株に着目した海外運用会社との提携商品の登場は、投資家ニーズの多様化と販売会社の商品ラインナップ拡充の動きを反映している。また、安定した資金流入を続けるアロケーション型ファンドへの注目は、市場変動期における分散投資とリバランスの自動化へのニーズを浮き彫りにしている。

投資家は、市場の変動に一喜一憂せず、長期的な資産形成の視点を堅持することが重要である。特につみたて投資は、市場の上下動にかかわらず継続することで時間分散効果を楽しむことができる。また、株式への集中投資が目立つ現状において、自身のリスク許容度を再確認し、アロケーション型や債券型を活用した分散投資を検討することも一考に値する。過去のパフォーマンスのみに依存せず、運用戦略の理解と長期的な視点に基づいたファンド選択が、持続可能な資産形成の鍵となるだろう。■

<sup>3</sup> 各ファンドのレーティングは毎月計算されるため、モーニングスター・レーティング別については資金流入月の前月末基準のレーティング、モーニングスター・メダリスト・レーティング別は前々月末基準のレーティングをそれぞれ用いて分類し集計している。

## Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー（日本）

### モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者（People）、運用プロセス（Process）、運用会社（Parent）の 3 つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものでもありません。

### モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント（寄贈基金）、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc.のさまざまな完全子会社（Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません）に所属しています

### お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services  
ManagerResearchServices@Morningstar.com



モーニングスター・ジャパン株式会社  
東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2025 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行いたいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869までご連絡ください。